

てらこや埋文

2017年
春

埋蔵文化財資料館が創立 30 周年をむかえた

30 年の歩みを振り返る

今年、山口大学埋蔵文化財資料館が創立されてから 30 年という節目の年にあたります。ここで簡単に当館が大学に設置された経緯についてご紹介します。

山口大学は、1960 年代半ばから山口市吉田地区への統合移転を開始しました。移転工事の際、土の中から多量の土器や石器などが発見されたため、埋蔵文化財の保護業務が必要となり、昭和 42 年(1967)には山口大学長を団長とする「吉田遺跡調査団」が組織されました。そして昭和 48 年(1973)の統合移転完了まで、調査団が地下の掘削を必要とする開発予定地の発掘調査を担当することになりました。この間の発掘調査で出土した考古資料は吉田地区の各校舎に分散して保管されていましたが、やはりこれらの資料を適正に保管・活用する施設が大学としても必要でした。

このような経緯があり、昭和 53 年(1978)に埋蔵文化財資料館は設置されました。また、キャンパス内での発掘調査業務も吉田遺跡調査団から資料館に引き継がれることになりました。このことにより埋蔵文化財資料館は、①発掘調査で出土した資料の収蔵と展示 ②キャンパスが所在する遺跡の考古学的な調査研究 ③埋蔵文化財に関わる様々な学間分野の学術交流の場の提供 という3つの目的を業務の柱とすることになりました。

平成 16 年(2004)、国立大学法人化に伴う組織再編により、資料館は山口大学大学情報機構の1組織として位置づけられることになりました。このため、ここ数年は様々な方法(展示・市民講座・刊行物・インターネット)を用いた埋蔵文化財の情報発信という取り組みを重点的におこなっています。

創立 30 周年記念特別展を開催!

これまでに資料館をご活用いただき、また資料館の活動にご支援いただいた学内外の多くの皆さまに 30 年間の感謝の気持ちを込めて、特別展を開催します。

今回の展示は、「弥生時代の食文化」をテーマとしました。現在でも日本の食生活を支えている稲作は、縄文時代の終わり頃に九州北部に伝えられ、瞬く間に日本列島の広範囲にその技術が伝わります。この稲作農耕が本格的に開始された時期を私たちは「弥生時代」と呼んでいます。それでは、弥生時代の稲作はどのような方法でおこなっていたのでしょうか? 前号で紹介したように、資料館は昨年「弥生時代の米づくり」に挑戦しました。今回は、その成果報告と伴に、県内外から出土した弥生時代の稲作の道具(木製・石製農具など)や米食の証拠(煮炊きに使われた土器や炭化米など)の展示をおこないます。また、弥生人の食生活を彩る米以外の食物(動物や魚貝類)も数多く公開します。

埋蔵文化財資料館の新たな一歩となる展示です。文化財や考古学に興味のある方はもちろん、そうでない方にも気軽に楽しんでいただける内容となっています。是非一度足をお運びください!

(横山成己)



山口大学埋蔵文化財資料館 創立 30 周年記念特別展

稲作到来 ~弥生人つくった とった たべた~

開催場所 国立大学法人山口大学埋蔵文化財資料館
開催期間 平成 19 年 4 月 2 日(月)~平成 19 年 6 月 1 日(金)
開館時間 午前 9 時~午後 5 時
休館日 土・日曜日、祝祭日
※休館日に入館ご希望の方は、事前にご連絡ください。
団体のお客様に限り対応いたします。
入館料 無料



吉田キャンパス遺跡保存公園 2

大学は「遺跡」の中に立地しています

山口大学は吉田キャンパスをはじめ、各キャンパスは「遺跡」の中に立地しています。当館は、1978年（昭和53）にこれら大学キャンパス内の遺跡（埋蔵文化財）を保護するために設立されました。以後、施設整備などにより、遺跡が破壊される可能性がある場合に発掘調査を行っています。

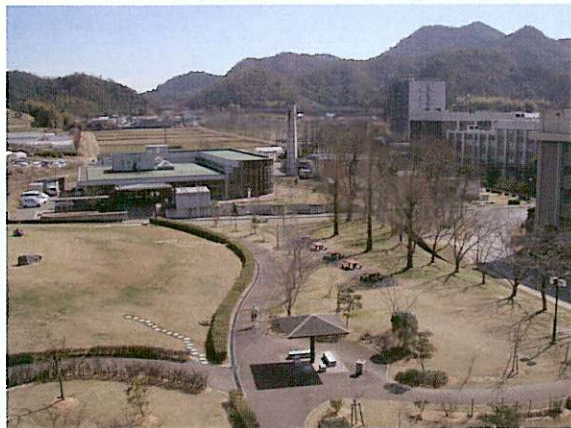
さて、以前に吉田キャンパスでは、第1学生食堂（ボーノ）の南西側に遺跡保存公園があることをご紹介します。今回は、大学会館南側の遺跡保存公園についてご紹介します。

大学会館南側の遺跡保存公園

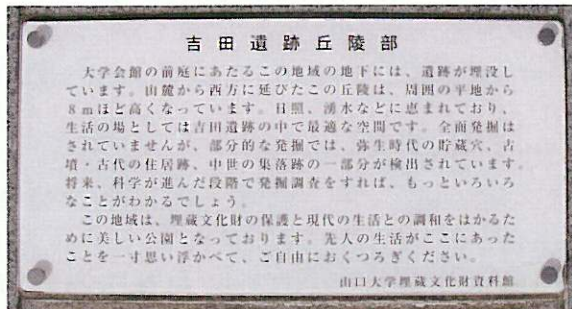
現在、大学会館の南側は、芝生が張られた美しい丘になっていますが、実はこの地下に遺跡が保存されていることをご存じでしょうか？この場所は姫山から西にのびた小高い丘陵で、見晴らしや日当たりも良い場所であるため、昔から生活には最適の場であったと考えられます。現在、遺跡保存公園の周囲には大学本部や大学会館など大学の中核となる建物が建ち並んでいます。これまでの発掘調査では、遺跡保存公園をはじめ、本部2号館、大学会館、第2学生食堂（きらら）敷地などで縄文時代から江戸時代に及ぶ遺構や遺物が見つかり、この一帯が古くから吉田遺跡の中でも中心的な場所であることが判明しています。

この公園を散策しつつ、遠い昔に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。詳しいことを知りたい方はお気軽にご来館ください！

（田畑直彦）



現況（西から）



説明板

第2学生食堂向かい側の階段脇に設置されています。



遺跡保存公園の発掘調査1985年（昭和60）（西から）
※弥生時代の竪穴住居跡や貯蔵穴などが見つかり、縄文から江戸時代の遺物が出土しました。



遺跡保存公園から出土した
弥生時代の甕

埋蔵文化財のお仕事 vol.8 総集編

このコーナーでは、多岐にわたる埋蔵文化財の仕事を紹介してきました。今回でシリーズ最終回となります。これまでの総集編として、遺跡の発掘調査報告書が完成するまでの手順をおさらいしましょう。

調査報告書ができるまで

発掘調査を行ったあと、調査成果を報告書にして公表します。報告書は全国の教育・研究機関に送り、遺跡の調査や考古学研究に役立ててもらいます。

①発掘	②洗浄	③注記	④接合	⑤復元
				
地下に遺跡があるか調査します。	見つかった遺物をきれいに洗います。	土器に整理番号を書きます。	同一個体のものを見つけたらくっつく箇所を探し接着剤で接合します。	接合をしても見つからなかった部分に石膏を入れ元の形に復元します。
⑥色付け	⑧実測	⑨トレース	⑩割り付け	完成!
				
石膏の部分に色を塗ります。	土器の大きさや厚さなどを測り図面にします。	実測図をトレーシングペーパーの上からなぞり清書します。	台紙の上にトレースした図面や写真を配置し、調査成果を執筆します。	印刷
⑦拓本				(植木美佳)
				
遺物の拓本を取ります。				

発掘調査で使う測量機器 vol.4

トランシット

発掘調査では、遺跡が国土のどの地点に位置するのかを明らかにする必要がありますが、その際使用されるのがトランシットと巻き尺です。トランシットは角度を測定する器械です。最近では、トランシットより高性能なトータルステーションが使われることも多くなっています。これは、巻き尺がなくても光を反射させることによって距離を測定したり、GPSやパソコンと接続してデータを得ることができるなどの理由からです。

基準点から角度と距離を測定して座標点を移動させていき、調査区内に設置した杭などに位置情報を与え、遺跡の位置を確定させます。

(有本浩紀)

使用例 基準点から位置を測定する

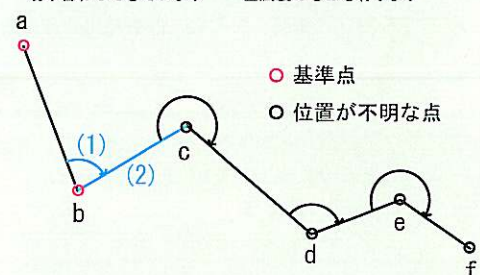
- ・地点 a と地点 b は基準点。地点 c から地点 f は位置情報が不明な点。
- ・地点 a にトランシットを設置して、地点 a と地点 c の角度を測定する。(1)
- ・地点 b と地点 c 距離を巻き尺で測定する。(2)
- ・角度と距離がわかったので、地点 c の座標は確定する。
- ・次に、トランシットを地点 c に設置し、同様の手順を繰り返すと地点 d の座標が明らかになる。
- ・地点 e と地点 f も明らかにすると、不明な点だった地点 c から地点 f までの座標がすべて明らかになる。



トータルステーションに切り替わってきています



測るときは弛まないようにします
金属製のものも有ります



国指定史跡長登銅山跡案内所

長登銅山跡休憩案内所は美東町の中程に位置し、北西には秋吉台国定公園があります。長登銅山の銅鉱脈は、秋吉台の地層に休憩所から西側にある火山からの溶岩が混ざりそのときの化学反応により生じたとされています。

銅鉱石は奈良時代から昭和35年にかけて採掘されていました。銅の他には鉛も採掘されていたようです。長登の由来は、奈良へ大仏建立のために銅を献上したことより奈良登の名を与えられ、それが訛って長登となったとされています。年間3千から4千人の方が訪れ、地域の子供達への学校教育やシニア学習グループなどへの社会教育の場として活用されています。昨年は国民文化祭が開催されたため、東京や九州など遠方からの来訪者も多かったそうです。

休憩案内所内には出土遺物や製錬実験でできたからみ（非鉄の製錬カス）、銅鉱石を砕くための石錠と要石、炉の底にたまった銅などが展示されており、製錬実験のビデオも見ることができます。休憩所の外には竪穴式住居が復元されており、以前に行われた製錬実験の炉やふいごなどもあります。少し歩くと、明治、大正時代の精錬所があり、足下一面の製錬くずの山は圧巻です。

長登の銅は、奈良の大仏に使われている銅で唯一産地が判明していることが特徴があり、現在確認されている最古の銅山です。木簡も多く出土していて203点が県指定の文化財になっています。美東町教育委員会の森田さんからは、発掘をすると数時間足らずで木簡を見つけることができる貴重な遺跡だという説明をしていただきました。

今後は、11月頃に銅の製錬実験を予定しているそうです。今のところ製錬実験で完全な成功はしていないということなので次の実験に期待です。

(有本浩紀)



お問い合わせ先

美東町教育委員会
山口県美祿郡
美東町大田 6170-1
Tel 08396-2-5555
現地案内所
Tel 08396-2-0055
月曜休館
冬期は土曜も休館

2007年冬 埋蔵文化財資料館の活動

1月 1/4 (木)
埋蔵文化財資料館ホームページのアクセス数 4000 回突破 (至 2004 年 4 月 1 日)。
1/9 (火)・16 (火)
吉田構内共通教育棟 (吉田遺跡) にて立会調査を実施。

2月 2/16 (金)
吉田構内共通教育棟 (吉田遺跡) にて立会調査を実施。
2/19 (月)
吉田構内人文・理学部外灯工事 (吉田遺跡) にて立会調査を実施。

3月 3/2 (金)
第22回企画展『吉田遺跡発掘調査速報展 2006』終了。入館者総数 276 名。
多数のご来観ありがとうございました。次回の展示も是非ご観覧ください。
3/13 (火)・14 (水)
吉田構内テニスコート坊球ネット設置工事 (吉田遺跡) にて立会調査を実施。
3/30 (金)
第4回大学情報機構埋蔵文化財特別展
『あしもの遺跡シリーズ2 古墳時代の吉田遺跡』終了。



吉田構内共通教育棟での立会調査風景



第4回大学情報機構埋蔵文化財特別展
展示風景